

令和6年度1月日田市実施分学力調査の結果について

I 調査の概要

(1) 実施期日

令和7年1月10日(金)

(2) 調査対象学年

小学校全学年 中学校1・2年生

(3) 調査内容と受検者数

【小学校】

	国語	社会	算数	理科
1年	449		450	
2年	449		446	
3年	459		460	
4年	464	463	465	463
5年	434	434	434	434
6年	498	496	498	496

(単位：人)

【中学校】

	国語	社会	数学	理科	英語
1年	459	465	464	466	464
2年	517	514	515	519	515

(単位：人)

(4) 用語の説明

◇正答率：全設問に対して児童生徒が正答した割合(集団の場合は平均値)

◇標準スコア(偏差値)：全国の正答率を50とみたときの日田市の平均正答率の換算値

2 令和6年度調査結果の概要

※表の各学年の下段「R5標準スコア」は、同一集団の昨年度の数値

(例 【小学校2年生】 上段：今年度の数値 下段：現小2の小学校1年生時の数値)

【小学校】

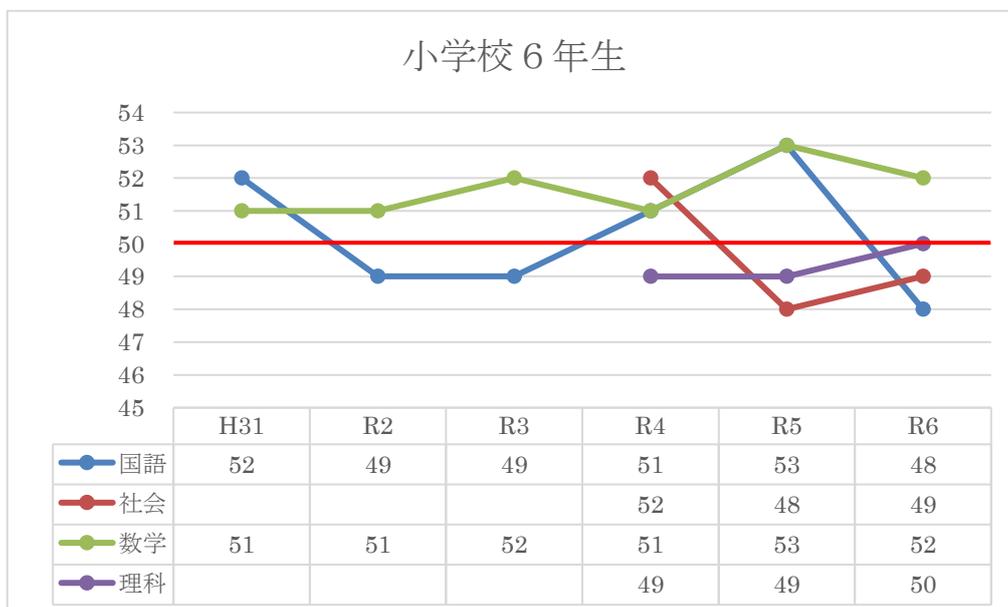
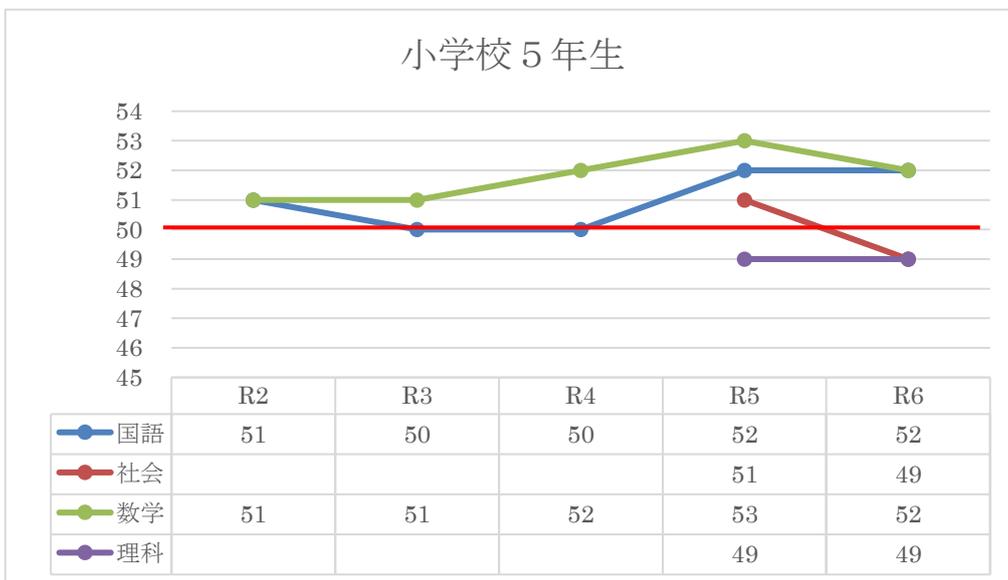
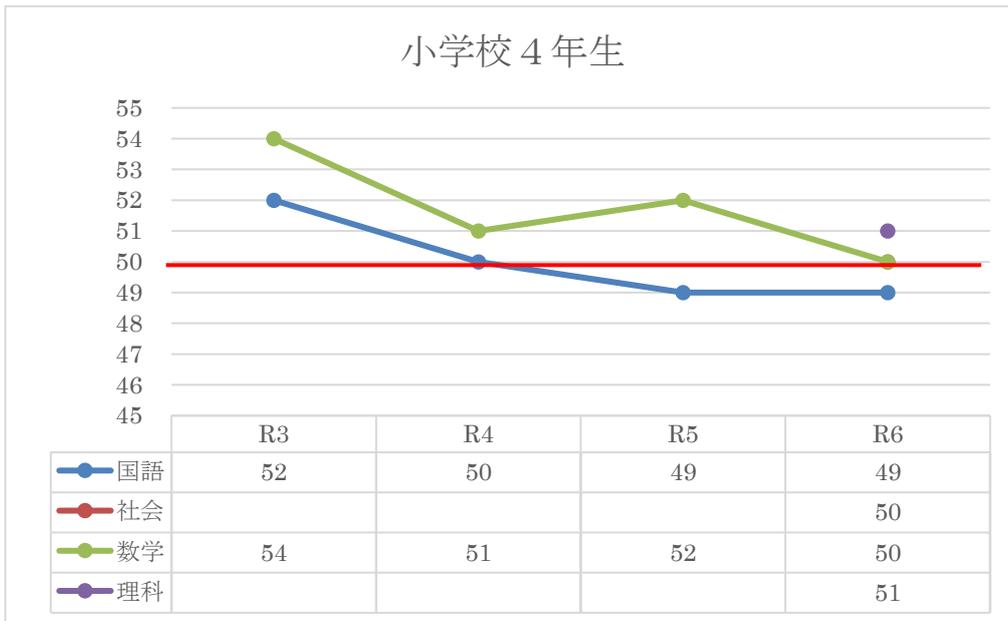
学年	1年生		2年生		3年生		4年生			
教科	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	社会	算数	理科
R6標準スコア	50	50	51	52	51	52	49	50	50	51
R5標準スコア			51	53	52	52	49		52	

学年	5年生				6年生			
教科	国語	社会	算数	理科	国語	社会	算数	理科
R6標準スコア	52	49	52	49	48	49	52	50
R5標準スコア	52	51	53	49	53	48	53	49

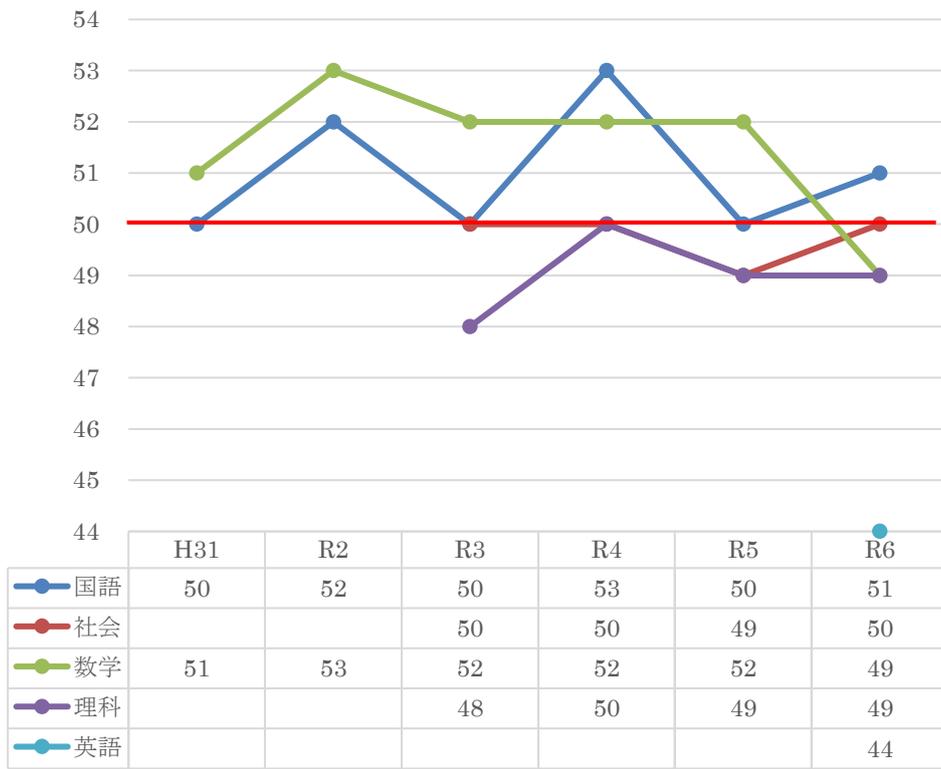
【中学校】

学年	1年生					2年生				
教科	国語	社会	数学	理科	英語	国語	社会	数学	理科	英語
R6標準スコア	51	50	49	49	44	50	49	50	48	45
R5標準スコア	50	49	52	49		51	50	50	49	47

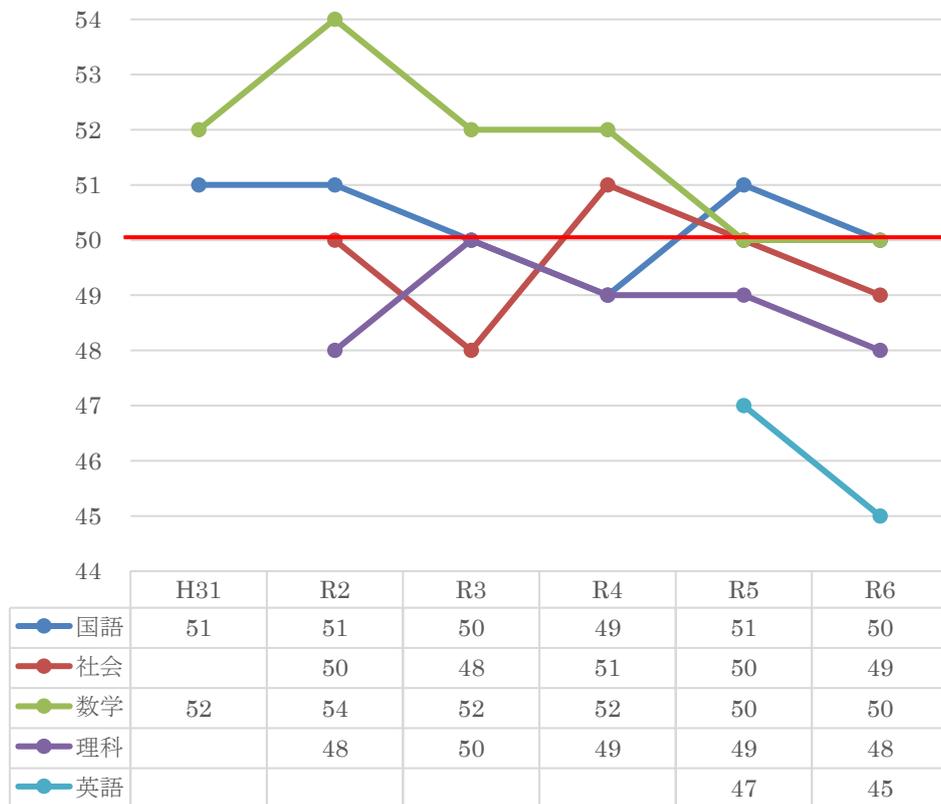
3 標準スコアの推移（同一学年経年比較）



中学校 1 年生



中学校 2 年生



4 現状と分析

【小学校】

<現状>

(1) 結果

○標準スコアは、[1年国語・算数][2年国語・算数][3年国語・算数][4年算数・理科][5年国語・算数][6年算数]で全国値以上。

(2) 成果・課題の見られた問題内容 ※成果は、全国平均正答率を超えた問題内容

	教科	成果	課題
1年	国語	◎言葉の学習 ◎漢字を読む ◎文章を書く	
	算数	◎ひき算の計算 ◎長さ・かさ	○ひきざん(大問17-2)
2年	国語	◎文章を書く ◎漢字を書く ◎説明文の読み取り ◎話を聞き取る	○話し手の工夫をとらえる。質問する。(大問6)
	算数	◎かけ算 ◎たし算 ◎ひき算 ◎長さ・かさ	○単位をそろえて比較する(大問14) ○大小を式で表す<等号・不等号>(大問15)
3年	国語	◎文章を書く ◎漢字を書く ◎物語の内容を読み取る	○「うろたえる」という言葉の使い方が正しい文を選ぶ。(大問3-2)
	算数	◎10000より大きい数 ◎たし算・ひき算 ◎かけ算 ◎長さ	
4年	国語	◎文章を書く	○中心となる語や文を見つけて要約する。(大問5-3) ○情報と情報の関係について理解し、事例を挙げて書く。(大問6-2)
	社会	◎地図の見方 ◎くらしをささえる水 ◎自然災害からくらしを守る一水害	○伝統や文化(大問6)
	算数	◎小数 ◎計算のきまり ◎簡単な場合についての割合	○平行四辺形の性質を説明(大問16-3)
	理科	◎天気の様子と気温 ◎動物のからだのつくりと運動	○電気のはたらき(大問10-2-①)
5年	国語	◎漢字を書く ◎言葉の学習 ◎説明文の内容を読み取る ◎文章を書く	○物語の内容を読み取る(大問4-3)
	社会	◎日本の食糧生産	○日本の気候の特色について、気温と降水量のグラフと都市の関係(大問1-3-②)
	算数	◎整数のなかま分け ◎小数のかけ算・わり算 ◎単位量当たりの大きさ、比例 ◎平均 ◎合同	○幅90cmの本棚に、厚さ5.4cmの本を何冊並べることができるかを問う問題(大問15-3)
	理科	◎植物の花のつくりと実	○流れる水のはたらき(大問9-2, 9-3)
6年	国語	◎文章を書く	○漢字を書く「駅舎」「粉末」「耕す」 ○図書だよりを作る(大問6-2)
	社会	◎明治維新	○日本の政治(大問2) ○資料をもとに、聖武天皇の行った政治について表現する問題(大問4-4)
	算数	◎分数のかけ算・わり算 ◎文字と式 ◎面積と体積 ◎対称な形 ◎拡大図と縮図	○3:7と等しい比を選ぶ問題(大問12-1)
	理科	◎動物のからだのつくりとはたらき	○月と太陽(大問7-1)

<分析>

- 全学年おおむね12月までの学習内容の定着ができています。
- 国語は全学年で「文章を書く」が全国平均を大幅に上回っており、授業中での書く機会の保障、短時間学習での条件作文の指導等、日々の指導の成果が見られる。
- 算数は全学年で全国平均を上回っており、1時間で付けたい力を明確に持ったうえでの授業が実践されている成果と捉えられる。
- 5年算数では、昨年度課題であった「単位量当たりの大きさ、比例」に関する問題での正答率が上昇したことから、課題を基に授業改善を進めた効果と考えられる。
- 日田市においては、5、6年の理科、4、5、6年の社会に課題が見られる。思考を伴う問題はもとより、知識を問われる問題も正答率が低いこともあり、基礎基本の定着も課題である。
- 教科により高学年に下降傾向が見られるようになっている状況は、昨年度から継続している。

【中学校】

<現状>

(1) 結果

○標準スコアは、〔1年国語〕〔2年国語・数学〕で全国値以上。

(2) 成果・課題の見られた問題内容

※成果は、全国平均正答率を超えた問題内容

	教科	成果	課題
1年	国語	○文法・語句に関する事項 (文節・単語・歴史的仮名遣い・ことわざ) ◎文章を書く	○情報と情報の関係について理解し、自分の考えが伝わる文章になるように工夫する。(大問6-3)
	社会	○世界の姿	○地理と歴史の複合問題(大問7)
	数学		○正の数・負の数(大問16-2) ○比例・反比例(大問17-1)
	理科	◎植物の分類 ◎動物の分類	○水溶液の性質(大問6-3) ○物質の状態変化(大問8-2)
	英語		○リスニング(対話文の応答)(大問4) ○単語の並び替えによる英作文 ○場面に応じて書く英作文
2年	国語	◎文章を書く ○漢字を読む・書く	○説明的な文章において、情報と情報の関係について理解し、目的に応じて複数の情報を整理しながら内容を解釈する問題
	社会		○地理と歴史の複合問題(大問5)
	数学	◎式の計算 ◎記述問題(大問16、17)	○1次関数(大問8-3)
	理科		○動物のからだのつくりとはたらき(大問7-1) ○植物のからだのつくりとはたらき(大問9-3)
	英語		全ての出題問題において全国平均及び目標値を下回る。 ○長文の読み取り(大問8) ○場面に応じて書く英作文(大問10)

<分析>

- 国語は7年連続で1年生の標準スコアが全国平均を上回っており、安定した状況が続いている。1年生、2年生ともに文章を書く力が定着している。
- 2年生の数学では、令和元年より昨年度まで標準スコアが下降傾向であったが、今年度は50を超えた。特に、「記述」の解答形式で全国正答率を5ポイント以上上回っている。
- 1, 2年生ともに理科・社会において「基礎」で標準スコアが50を下回っている。
- 1, 2年生ともに英語の「基礎」「活用」や3つの観点のすべての項目で標準スコアが50を下回っていることから、授業においては「聞く」「読む」「話す(やり取り)」「話す(発表)」「書く」の4技能5領域をバランスよく配置した単元構想及び授業改善が必要である。
- 1, 2年生ともに、英語の標準スコアは年々下降傾向にあり、加えて、「基礎」のスコアが「活用」よりも約2ポイント低くなっている。
- 1年生の英語「3文以上の英作文」は、昨年度の正答率を上回っている。
- 2年生の英語「並び替え英作文」は、昨年度の正答率を上回っている。

【質問調査】

＜各教科の理解度と愛好度の状況（学校独自アンケート）＞

・ 4月調査を受検した小5・小6・中2における、理解度・愛好度の4月と1月との比較

※色付き部分は好転した教科

小5		国語	社会	算数	理科	外国語
理解度 (%)	4月	87	80	81	88	
	1月	90	89	85	95	88
愛好度 (%)	4月	55	54	57	78	74
	1月	76	67	68	87	84

小6		国語	社会	算数	理科	外国語
理解度 (%)	4月	83		82		75
	1月	92	89	88	96	82
愛好度 (%)	4月	67		65	89	74
	1月	75	75	71	86	77

中2		国語	社会	数学	理科	英語
理解度 (%)	4月	80	64	63	68	55
	1月	78	77	71	72	58
愛好度 (%)	4月	51	51	40	53	38
	1月	60	77	56	66	45

＜分析＞

- 小学校5，6年生においては、すべての教科において、理解度・愛好度ともに1月の調査で数値が高くなった。
- 中学校2年生においては、ほとんどの教科において、理解度・愛好度ともに約10%向上した。
- 多くの学校で、理解度・愛好度ともに数値が高くなっており、児童生徒の個別の実態に応じた授業改善が進められている成果だと考えられる。

5 今後の取組

(1) 年間通じた日田市統一の取組

- ①全ての児童生徒が「わかった」「できた」と感じることができる授業改善。
- ②効率よく個に応じた補充学習を実施するためのICTを活用したドリル学習。
- ③児童生徒の実態の共有による、学校と家庭が連携した取組の推進。

(2) 1月調査後の各学校の取組

- ・調査結果と各教科の愛好度と理解度調査の分析から、「具体的改善策」を作成。
- ・改善策（授業改善・補充学習・家庭学習）に基づき、年度内に定着が不十分な単元や領域について補充の学習を行う。
- ・業者提供のフォローアップドリルを含むAIドリル、中学校は問題データベースも活用する。
- ・春休みの宿題は、各学年の一通りの学習内容と併せて、年度末までの改善が十分でない学習内容について学年部で統一したものを課す。
- ・結果資料及び分析結果を次年度の学年部へ引き継ぎ、年度を跨いで継続した指導を行う。

【ICTを活用した個に応じた指導】

- ・帯タイムや朝会の時間等を利用したマイアセスのフォローアップドリル、AIドリルによる個に応じた補充学習を実施。
- ・補充が必要な児童生徒には直接指導を行うことで、より効果を上げる。